

第 26 回 圧力設備規格審議委員会議事録

1. 日時：平成 29 年 3 月 15 日(水) 14:00～17:00

2. 場所：HPI 会議室

3. 出席者

委員：大原委員長（千代田化工）、阿部（NIMS）、磯村（KHKS）、熊谷（電中研）、佐々木（労働安全衛生総合研究所）、木村（石油連盟）、小川（青学大）、石毛（IHI）、木下（三菱日立パワーシステムズ）、寺田（神鋼）、関口（東京ガス）、門（日揮）、酒井（東洋エンジニア）、中代（IHI 検査）、松岡（三井化学）、高木（火原協）、新川（東芝）、朝田（三菱重工／記）

原案作成者：村上（原電）

事務局：畑岸、田中（HPI）

4. 配布資料 圧力設備規格審議委員会-25-

- 1 第 25 回圧力設備規格審議委員会 議事録（案）
- 2-1 圧力設備審議委員会規則、規格制定手順書、ワーキンググループ運営規則付議書
- 2-2 同上 改定案
- 2-3 圧力設備審議委員会規則本体、新旧対照表
- 2-4 圧力設備審議委員会規格制定手順書本体、新旧対照表
- 2-5 圧力設備審議委員会ワーキンググループ運営規則本体
- 3-1 HPIS C 111 付議書
- 3-2 HPIS C 111 本体
- 3-3 HPIS C 111 コメント一覧

5. 議 事

大原委員長の司会のもと、出席委員数が委員会成立の定足数を満たしていることを確認した後、以下の議事が進められた。

5.1 前回議事録（案）の確認他

委員の交代は、村上委員が退任、高木委員が新委員となった。

事前に電子メールによって配布、確認がされていた議事録（案）について、承認された。

5.2 改正案審議

事務局から資料 26-2-1 に基づき、付議書が説明された。HPIS TR の審議方法について本委員会でも度々議論されており、また圧力容器規格委員会(PVCS 委員会)から HPIS C110 TR「圧力容器の疲労設計ガイドブック」の審議が長期化したことについて、審議方法の改善の申し入れがあったため、HPIS TR の審議方法の改正を主として、圧力設備規格審議委員会の規則、制定手順書、ワーキンググループ運営規則の改正を行うこととなった。

以下の通り審議を行った。本日の改正提案資料に対して、追加のコメントがあれば 3/29 までに事務局に連絡する。コメントを反映後、書面投票に入る。

(1) 圧力設備規格審議委員会 規則

事務局から資料 26-2-2 で圧力設備規格審議委員会規則改訂案の説明があった。基本方針はこの委員会を立ち上げのために制定したものであるため、削除し、必要な内容を取り込んで見直した。主な変更は、対象は改正前は HPIS だけであったが、改正後は HPIS と HPI TR とした。JIS (圧力設備関係)の新規制定に関する要望・意見も追加した。委員の委嘱は、理事会の議決が必要だったのを、委員会の承認で委員長が委嘱することとした。委員倫理は、基本方針につけていたが、その廃止に伴って本規則の添付とした。議案の採決に至る手順の詳細は手順書に集約した。パブコメは HPIS のみとした。規格作成の公知は削除した。改定は改正で統一した。

(規格審議委員会) 5 条の委員の委嘱は理事会の議決事項であったが、それを委員会に移行してよいか。
(事務局) 細則を確認したところ、会長による委嘱となると理事会の承認が必要となる。委員は理事会の承認に見直す。

(規格審議委員会) 基本方針の廃棄の提案はあるのか。

(事務局) 理事会の承認を得る。なくすことでよいかをこの委員会で審議する。

(規格審議委員会) 20 条他で協会のままになっている。

(事務局) 拝承。修正する。

b. 圧力設備規格審議委員会 制定手順書

事務局から資料 26-2-3 で説明があった。規格の制定目的等を基本方針から移動した。HPIS と HPI TR の定義、規格の制定対象を記載した。HPIS はパブコメあり、HPI TR は実施しないことを記載した。HPIS の審議は従来と同様であり、HPI TR の原案・改正原案の審議方法を追加した。従来のプロセスレビュー実施要領に HPI と HPIS がわかるように見直した。手順書の改正・廃止は、委員会までとして、理事会の決議は削除した。規格制定・改正手順のフローも見直した。ホームページで公開する情報にワーキンググループ運営規則を追加した。

(規格審議委員会) 規格の制定目的は手順書でよいのか。規則でなくてよいか。

(事務局) 基本方針にあったから。委員会が規則、規格の作り方として制定目的は手順書にした。規則の 4 条で手順書を見るようにしているので、これでよい。

(規格審議委員会) 別添 1 のフローチャートで、HPIS のパブリックコメントとするべき。

(事務局) 拝承

(規格審議委員会) 別添 3 で、パブコメの募集公告だけでなく、結果も公開するべき。

(事務局) 拝承

(規格審議委員会) HPIS を廃止するときにパブコメは不要か。廃止をしてほしくないという要望もあるかもしれない。

(事務局) 使用しないから廃止する。溶接後熱処理は、廃止したが、HPIS 番号をとって本にはしている。残すことは可能。廃止したらホームページには載せる。

(規格審議委員会) 規則で、17 条(パブコメ)、18 条(プロセスレビュー)を 4 条と同じようにして、詳細は手順書にするという体系にしては。

(事務局) 拝承。検討する。

(規格審議委員会) 8 章で、HPI TR はコメントは 1 回のみとしているが、この限りではないというところで、追加の対応はされるということか。コメントが納得できない場合の対応が必要では。「再度の・・・」は削除しては。「対応策を確認する」ことで読めるのでは。納得できない場合でも議論して、委員会で対応策を確認して議決すればよい。

(事務局) 誤解のないように規定を HPIS と HPI TR とで分ける。別添のフローも分ける。

c. 圧力設備規格審議委員会 ワーキンググループ運営規則

事務局から資料 26-2-4 で説明があった。規則の 14 条にワーキンググループが規定されており、以前にあったワーキンググループ運営規則で一部見直した。議決は理事会から委員会に見直した。経費については削除した。

(規格審議委員会) 通常のメンバー以外をワーキンググループに召集する場合の経費の扱いは問題ないのか。

(事務局) そのような場合の対応の規定がないので、残すこととする。

5.3 制定案審議

5.2.1 HPIS C 111 圧力容器及びボイラ用材料の外圧チャート

事務局から、資料 26-3-1 に基づき、付議書が説明された。HPIS C111 「圧力容器及びボイラ用材料の外圧チャート」の制定を審議レベル II (パブコメ有) で申請があった。2000 年に JIS B 8270 が廃止され JIS B 8265 (圧力容器の構造—一般事項)が発行された。JIS B 8265 の許容引張応力表は ASME Sec.II の JIS 材に相当する ASME 材の許容応力を参考として制定された。一方、JIS B 8265:2000 の

外圧チャートは改訂されずに JIS B 8270 のまま採用された。その後、JIS B 8265 の改訂にともない外圧チャートも ASME を参考にして改訂作業が進められるとともに、JIS B 8265、8266 (圧力容器の構造—特定規格)及び 8267 (圧力容器の設計)の許容応力表に材料が採用されていない場合は外圧チャートも削除された。現在の JIS B 8265、8266 及び 8267 では JIS B 8265:2000 版の外圧チャートと比べて欠番が多くなってきている。その結果、欠番となった外圧チャートがどのようなものかわからなくなってきた。このため、JIS B 8265、8266 及び 8267 に掲載されているすべての外圧チャートを網羅的に収録するとともに、HPI で制定された再処理施設の高純度材料の外圧チャートも収録し、規格使用者の便宜をはかることとした。また、将来の外圧チャートの改訂の際に参考するためにも利用できるよう考慮し、整備した。いずれは JIS B 8265 及び 8267 にいずれは読み込まれることになる。

原案作成委員会の村上委員から、資料 26-3-2 に基づいて、制定案の説明があった。ASME にはデジタル値はあるが図と異なる。ASME のデジタル値から図を作成したが、不連続になる部分もあるので適切に線図を見直し、整備したが、JIS では許容応力表にないものは抜いたため、HPIS として抜けなく整備する。HPIS、JIS B 8265、JIS B 8266、JIS B 8267 及び ASME との対応表も作成した。資料 26-3-3 で事前に頂いたコメント対応について説明があった。縦弾性係数が異なっているものについては、ASME を参照した。編集上の修正は反映する。外圧チャートは許容応力表と対とした。アルミ合金についても JIS にはないがここには反映した。

村上委員の説明に基づき、次のような議論が行われた。

(規格審議委員会) C108 は 1 種類だけか (p.6 のコメント回答)。R がついても 304 系と呼んでいいのか。

(原案作成委員会 村上委員) その理解でよい。

(規格審議委員会) いずれは JIS B 8265 及び 8267 に読み込まれることになるが、ASME とは縦弾性係数が異なるのでは。外圧チャートは ASME、縦弾性係数は JIS というのがよいのか。

(原案作成委員会 村上委員) 縦弾性係数は検討しており、ASME に合わせる方向で検討している。少し異なるのが、グルーピングの違いのため。一部不整合はあるが、採用されても大きな影響は出ない。

(規格審議委員会) JIS B 8265 他に将来採用された際に、HPIS 規格は廃止するのか。

(原案作成委員会 村上委員) JIS は欠番が増える方向であり、将来見直す時のために整備しておく。

(規格審議委員会) デジタル値は記載しないのか。設計する場合にはデジタル値があれば便利である。

ASME に働きかける際にも有効では。

(原案作成委員会 村上委員) 今回はデジタル値は記載しない。デジタル値があれば線は引ける。ASME からかわっているところがある。次回の改正のときには検討したい。1 本 1 本吟味して、ASME から線図を作り直しており、デジタル値を抽出するのもかなり手間がかかる。

(規格審議委員会) σ_y の定義で、降伏点は下降伏点なのか。

(原案作成委員会 村上委員) JIS の記載に合わせた。材料規格の降伏点としているのでこのままでよい。

(規格審議委員会) 量の記号は斜体にするべき。

(原案作成委員会 村上委員) 拝承。

(規格審議委員会) 原案作成委員会となっているが、手順書ではそのような委員会は規定されていない。

(原案作成委員会 村上委員) 前書きに圧力容器委員会、材料規格分科会と記載がある。

(規格審議委員会) 原案作成委員会の名簿が最後にあるがよいか。

(原案作成委員会 村上委員) JIS がそうになっており、規格要領を JIS に合わせた。

(規格審議委員会) アルミの質別記号で O(オー)か 0(ゼロ)か判別しにくい。

(原案作成委員会 村上委員) Oを入力しているが、フォントの違いのため 0(ゼロ)のように見えているだけ。アルミの質別記号なのでわかると思う。

(規格審議委員会) 図が貼る時にぼやけているようだが。

(原案作成委員会 村上委員) 画像ソフト(イラストレータ)から WORD に張り込むときの解像度の間

題と思われる。
(規格審議委員会) 規格の比較表で JIS の年版も入れては。
(原案作成委員会 村上委員) 拝承。

以上の審議の結果、3/29 までに規格審議委員会からのコメントを募集し、提出されたコメントに対して原案作成委員会で対応を検討した上で、書面投票にかけることが承認された。

以 上